



代表 はまうら佳子
〒582-0026
柏原市旭ヶ丘2丁目4番25号
電話 072-977-5502
FAX.072-977-8782

かしわら見張り番

応援します！ お母さん・働く女性



昨年来の世界的経済恐慌は、米国から始まって、あっという間に世界を巻き込みました。その原因については、複雑になりすぎた金融商品の問題だとか、経済管理の問題だとかが論じられました。その中で、とてもユニークな論を展開した方があります。

ハワイに伝わる癒しの技法として話題の「ホ・オポノポノ」の普及者、I. ヒューレン博士です。博士によると、今回の経済危機の最も深い原因は、世界の女性たちが「自分たちは愛されていない。不幸だ」と感じていることだと言うのです。

女性の不満感と世界的な経済との間に、どういう因

「家庭力」に目を向ける 不況の原因は女性の不満感？

果関係があるのかと、ちょっと呆れる話にも思えます。しかし、博士の論旨はこうです。

1人の人間の家庭生活と会社生活とは、密接に連動する。家庭生活に問題があれば、それは必ず会社での仕事に影響を及ぼす。人類の半数である女性が「自分は幸福ではない」と家庭で感じていれば、その本人あるいはその夫の仕事に良い影響を与えるはずがない。



これはあまりに簡略化しすぎていますが、大切な何かに私たちの目を向けさせてくれます。

経済活動には論理的な合理性があり、その分析には極めて高度な数学が駆使されているでしょう。しかしそれが人間の活動である限り、その根底にあるのは、やはり人間の感情に違いありません。

幸福感があり、生き甲斐を感じているのか。その感情を左右する最も重要な基地が家庭でしょう。家庭生活が幸せであってこそ、私たちのあらゆる活動がうまくいく。博士の言葉は、それを思い起こさせてくれます。

前述の談合事件でも、一〇〇%近い落札価格(九三%で談合といわれる)が一年間にわたって十一件続いた(うち九件が不正入札とされた)。この明らかな不正を、なぜ議会はチェックできなかったのか。議員一人



談合事件を追及する浜浦議員の質問に動議が出され本会議は大きく遅れた＝議会で質問に立つ浜浦佳子議員。写真は今議会のものではありません

浜浦議員が市民の会を代表して質問に立ったのは十月二十一日の本会議。市政運営方針に対する質疑応答のなかで、昨年の水道工事をめぐる談合事件を取り上げたところ、一人の議員から動議が出され、暫時休憩の繰り返して予定時間を四時間も延長することになったのである。

動議の主な理由は、浜浦議員が、裁判記録(供述書)を引用したこと、ある議員の身内である企業の実名を出したこと。裁判記録は、正規の手続きを経て開示請求した文書であるにもかかわらず「本物か」という言いがかりに近い動議。企業名も、すでに昨年の本会議で、浜浦市議の質問に対して市側の答弁のなかで出ている。

結局、本会議は午後九時までずれ込み、傍聴した市民には何の説明もなかった。言論封じ込めは議会の自殺行為

岡本市長は「このままでは公序良俗に反しないかぎり、活発な議論は許されるはず。にもかかわらず、浜浦議員が、裁判記録(供述書)を引用したこと、ある議員の身内である企業の実名を出したこと、裁判記録は、正規の手続きを経て開示請求した文書であるにもかかわらず「本物か」という言いがかりに近い動議。企業名も、すでに昨年の本会議で、浜浦市議の質問に対して市側の答弁のなかで出ている。

周知の通り、柏原市も深刻な財政危機に直面している。同じ府下の泉佐野市は財政破綻一歩手前の「早期健全化団体」になった。柏原市も五十歩百歩の「破綻予備軍」なのだ。岡本市長は「このままでは公序良俗に反しないかぎり、活発な議論は許されるはず。にもかかわらず、浜浦議員が、裁判記録(供述書)を引用したこと、ある議員の身内である企業の実名を出したこと、裁判記録は、正規の手続きを経て開示請求した文書であるにもかかわらず「本物か」という言いがかりに近い動議。企業名も、すでに昨年の本会議で、浜浦市議の質問に対して市側の答弁のなかで出ている。

柏原市定例会

市は正々堂々と議論せよ

十月末の市議会選後初の定例会(10月7日～30日)。浜浦議員の質問に慌てた市長派議員は動議を連発、議論を封殺する動きに出た。議会は何のためにあるのか。なぜ、正々堂々と議論をしないのか。地方分権、地方自治を進めていく上でも議会の改革が急務である。

談合追求する浜浦議員を妨害

議員の発言取り消しを求めて議論を封じ込めようとすることは自殺行為に等しい。

驚くべきことに「古い話をほじくり返すな」と言う議員がいる。昨年の水道工事をめぐる談合事件は決して「古い話」ではない。逮捕

者まで出したにもかかわらず、市は真摯な反省もないうまま今日に至っている。明々白々の談合が簡単に、しかも長期間にわたって続いてしまふ柏原市政の体質に根本的なメスを入れない限り、税金の無駄遣いはなくなりません。浜浦議員はこのことを訴えて議員に選出されたのだ。

予算編成権は首長にあるが、議会には修正権があるのだから、議員としてできることは多い。片山善博・前鳥取県知事は地方議会について「条例を素直に可決し過ぎる。修正もしないというのには議会の怠慢だ。選挙で担いだ首長であつても、是々非々でやるべきだ」と苦言を呈している。

柏原も「破綻予備軍」

問われる岡本市政の責任

た。しかし、市立柏原病院の経営改善やJR柏原駅前再開発の見直しは見通しも立っていない。これは市民の責任ではなく政治の責任である。

市長のご機嫌取り議員はいらない

放漫行政を見逃してきた議会の責任も重い。議会は何のためにあるのか。市政が正しく運営されるよう、市民の納めた税金の使い方をチェックすることだ。地方自治の二元代表制とは、行政サイドと議会サイドが対等に議論し合うべき制度なのだ。

これが地方議会として本来のあるべき姿であるが、残念ながら、この当たり前のことが全くできていないのが柏原市政の現状だ。これでは市民の声が議会で反映されにくいのは当然で、結局、それは市民を不幸にしてしまう。片山前知事の指摘を待つまでもなく、議会が変われば地域も変わる。

みなさまの声募集中です。



柏原を希望あるまちにするため、みなさんのご意見やご要望、また夢など、どしどしお寄せください。

info@change-kashiwara.com
〒582-0026 柏原市旭ヶ丘2丁目4番25号
電話 072-977-5502 FAX 072-977-8782